

**FILE 2 第4回 日本女子大学
家政学部賞授賞式・講演会**

家政学部長 石川 孝重

10月6日(木)午後、第4回日本女子大学家政学部賞授賞式・受賞記念講演会を八十年館851教室で開催しました。授賞式に引き続き、今回の受賞者である、OME P(世界幼児教育機構)・日本委員会・児童学分野、ホリカフーズ株式会社(食物学分野、特定非営利活動法人「I Love つづき」(住居学分野)、多田牧子氏(組紐作家(被服学分野)、フランシンプー氏(ミャンマー在住のエコノミスト、地域開発基金上級プロジェクト・コンサルタント)(家政経済学分野)よりご講演いただきました(フランシンプー氏はビデオによる講演。本賞は「私たちの生活をより合理的で豊かなものにするために、家庭生活や生活環境に関わる諸問題を自然科学的・人文科学的・社会科学的方法で探求し、人類の福祉に広く貢献する個人および団体の活動を奨励すること」を目的としています。受賞の方々の活動や講演は、まさにその趣旨に合った素晴らしいものでした。



受賞者の方々(左よりOME P日本委員会、ホリカフーズ株式会社、特定非営利活動法人「I Love つづき」、多田牧子氏、スクリーン上のフランシンプー氏)



豊かな生き方を表現する力をも身につけるために
家政学部長 石川 孝重

この度の地震で被災された皆様によりお見舞い申し上げます。3月11日の地震はその影響が広域だったこと、津波災害を伴ったこと、原発へも影響を及ぼしその影響が長期間にわたること

など、まさしく未曾有の震災となりました。特に人々の生活面への影響が多々あることが、今後の社会や人の考え方に大きな影響を与えるものと考えています。学事日程の大幅な変更がある中で、皆様は入学、新学期を迎えることになりました。「価値観が多様化する現代社会において、「豊かさ」や「幸福」の意味を個々に見つめることが大切です。勉学の意義や生き方、生活のあり方を見つめてみることも重要だと思います。家政学は生活の向上と人類の健康、安全、福祉に貢献する実践的総合科学(サイエンス)です。身近な生活を素材として専門的な学びを深めていくことで、生活者として豊かに生きる力を身につけることができます。さらにはその深い理解を礎に、社会の福祉に貢献できるプロフェッショナルとしての基礎力となるでしょう。将来の目指す自分を見据えて、今、何ができるのか、常に考えながら成長していただきたいと願っています。

日本女子大学学園ニュース、Vol.226号、
p.4, 2011年5月23日

2011.December 10

日本女子大学学園ニュース、Vol.229号、
p.10, 2011年12月15日

「講師派遣事業」を利用して

今回は府中支部での講演会の様をお届けします。

府中支部では、毎年講演会を行っています。今年度は、住居学科教授の石川孝重先生をお願いしました。11月13日に「首都直下地震に備える」というテーマで開催しました。皆さんからの要望が、多かったテーマで、市報にも載せたので、地域の方そして北多摩、八王子両支部の方も出席され盛況でした。先生は、東日本大震災、阪神淡路大震災及びリクエスタの多かつた立川断層についてなど、スクリーンに図解入りで分かり易くお話ししてくださいました。立川断層は、埼玉県飯能市から東京都府中市まで33kmの活断層です。あちこちに崖線が見られ「ほけ」と呼ばれて風情があります。が、今は地震が心配な場所になりました。

いつ起るか分からない大震災に出来るだけの備えをするよう力説され、家の耐震診断のパンフレットを参加者全員分用意してくださいました。昭和56年以前に建築された家は検査してもらおう方がいい。家具はL型金属で止め転倒防止し、食糧と水は1週間分用意することなどです。貴重なお話を伺い、一同大変感謝し、早速備えをしましょうと話していました。

会場は大国魂神社の近くなので、当日は七五三の子供たちで賑わっていました。この平和がいままで続きますようにと、も神社にお参りして帰りました。

内藤亨子(昭和58年国文学科卒、新10回)

講師より



事前に「立川断層」に対する講演要請もあり、当日は首都直下地震を題材に「被災後の視点から住宅の耐震診断や家具止め・備蓄の問題など、特に「自助」に焦点を当ててお話ししました。発災後の備えとして7日分の水と食料の備蓄をお勧めしました。生活経験をお持ちの皆様だけに熱心に聴講され、講師としても熱の入る会となりました。講演会を企画していただいた府中支部長・内藤亨子様をはじめお世話になった皆様へ感謝申し上げます。石川 孝重(住居学科教授)

桜楓新報、第699号、
p.2, 2012年3月10日